



平成 19 年 11 月 8 日

各 位

大阪市北区堂島浜二丁目 2 番 8 号 東洋紡ビル

ヴィンキュラム ジャパン株式会社

代表取締役社長 城田 正昭

(JASDAQ・コード番号: 3784)

問い合わせ先 取締役管理部長 吉田 裕

TEL 06-6348-8951

平成 20 年 3 月期中間（連結・個別）業績予想との差異及び

通期（連結・個別）業績予想の修正に関するお知らせ

平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)の業績予想について、平成19年5月15日付当社「平成19年3月期決算短信（連結）」及び同日付当社「平成19年3月期個別財務諸表の概要」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

1. 平成 20 年 3 月期 連結業績予想の修正等

(1) 中間期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日）

(単位: 百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中間純利益
前回予想 (A)	6,300	350	335	185
今回修正 (B)	6,125	408	396	253
増減額 (B－A)	△175	58	61	68
増 減 率	△2.8%	16.6%	18.4%	37.1%
(ご参考) 前期実績 (平成18年4月1日～平成18年9月30日)	6,212	544	544	304

(2) 通期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

(単位: 百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当期純利益
前回予想 (A)	12,300	775	740	407
今回修正 (B)	13,300	775	740	420
増減額 (B－A)	1,000	—	—	13
増 減 率	8.1%	—%	—%	3.2%
(ご参考) 前期実績 (平成18年4月1日～平成19年3月31日)	12,229	940	875	463

(3) 修正の理由

連結業績（中間期及び通期）見通しの修正につきましては、個別業績予想（中間期及び通期）の修正に伴うものであります。

2. 平成20年3月期 個別業績予想の修正等

(1) 中間期（平成19年4月1日～平成19年9月30日）

（単位：百万円）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中間純利益
前回予想（A）	6,300	365	350	193
今回修正（B）	6,125	427	415	270
増減額（B－A）	△175	62	65	77
増 減 率	△2.8%	17.0%	18.8%	40.3%
（ご参考）前期実績 （平成18年4月1日～平成19年3月31日）	6,213	551	551	310

(2) 通期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

（単位：百万円）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当期純利益
前回予想（A）	12,300	805	770	423
今回修正（B）	13,300	805	770	445
増減額（B－A）	1,000	—	—	22
増 減 率	8.1%	—%	—%	5.2%
（ご参考）前期実績 （平成18年4月1日～平成19年3月31日）	12,228	954	890	476

(3) 修正の理由

①中間期業績予想の修正理由

当中間期の売上高につきましては、好調な企業収益を背景に、ハードウェア販売サービス事業及びその他事業が当初予想より順調に推移いたしました。しかしながら、アウトソーシング事業の新規案件のスタートが遅れたこと、ソリューション事業及びプロダクト事業の受注の遅れ及び案件が一部下期へシフトしたこと等の影響により、売上高合計は予想値を若干下回り、61億25百万円（当初予想比：1億75百万円の減少）となる見込みであります。

営業利益及び経常利益につきましては、新規アウトソーシング案件が順調に推移したこと及びプロジェクトマネジメント力強化により不採算案件が減少し、ソリューション事業、プロダクト事業の利益率が向上したこと等により当初予想を上回り、営業利益は4億27百万円（当初予想比：62百万円増加）、経常利益は4億15百万円（当初予想比：65百万円増加）となる見込みであります。

中間純利益につきましては、上記の理由及び過年度の法人税等の戻入りの影響等により当初予想値を大きく上回り、2億70百万円（当初予想比：77百万円増加）となる見込みであります。

②通期業績予想の修正理由

通期業績見通しにつきましては、売上高は主要顧客向け I T システム統合案件の受注等により順調に推移する見込みであります。

利益面は、受注した I T システム統合案件も含め、顧客要望の高度化、コストダウン要望の増加、同業他社との競争の激化等により利益率の低下が予想されます。また、J - S O X 対応、I S O 2 0 0 0 0 認証取得及び C M M I レベル 3 の認証拡大を目指すとともに、次世代プロダクト開発等の事業基盤の確立に向けた取組みによりコストが増加する見込みです。

このような当社を取り巻く環境及び当中間期までの業績進捗状況を踏まえ、売上高は期首の予想値を修正し、売上高 133 億円（当初予想比：10 億円増加）といたします。また、営業利益及び経常利益につきましては期首の業績予想値通りとし、当期純利益につきましては、法人税等の戻入りの影響等により当期純利益 4 億 45 百万円（当初予想比：22 百万円増加）といたします。

なお、配当金につきましては、当初予想通り 1 株あたり 3,600 円を予定しております。

※上記に記載した業績予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以 上